

ボクはこんな音楽を聴いてきた

大島ミチル：風笛 ～NHK朝ドラ「あすか」

俳優 竹内結子さんが突然この世を去ったことは少なからずショックを受けた。なぜ？と残念で仕方がない。彼女が世に知られたのは、NHK朝の連続ドラマ小説「あすか」のヒロインとしてだ。ボクはまだ20歳代だったと思うが、「あすか」はそうみてはいなかったのだが、竹内さんとそのテーマ音楽ははっきりと覚えている。このテーマ音楽に慰められ、そして涙したことだろう。作曲は大島ミチルさん。この作品の前には、コマーシャルソングやボチボチとドラマの音楽も書き始めていた頃だろう。ボクは大島ミチルさんのことはそれ以前に男声合唱のための「御誦」（おらしょ）の作曲者として知っていたのだ。関西学院大学グリークラブがボクが学生の頃も定期演奏会で取り上げていたし、そのオーケストラ版を指揮の師匠が初演していて、「ローマ法王の御前で演奏することになってたんだよ」と話を伺ったりしていたからだ。足踏みしたり、手を叩いたりおもしろい曲だった。

その大島さんが書いたテーマ音楽、オーボエのソロがなんとも言えずいい。宮本文昭さんのオーボエだ。もう惚れ込んでしまって一時期何度も何度もくり返し聴いていた。

久しぶりに聴いてみようとしてYouTubeで探してみたら、宮本さん自身のオーボエと笑里さんのバイオリンでの演奏があった。特にオーボエの高音の抜けときらめき、フレーズのおさめ具合とゆるみ。まるで音楽が生きもののように、そして、野をわたっていく風のように・・・。

👉 <https://youtu.be/0QvjVWNvNXs>

武満 徹：小さな空

現代の曲を続けていたら、みなさんがドン引きしていく姿が見えるようです。

20世紀を代表する作曲家3人はと問われれば？ボクはバルトーク、メシアン、武満と答える。

武満徹はクラシカルな作曲家であるけれど、ギターや映画音楽やちょっとしたオシャレな曲も書いている。この「小さな空」は、田中信昭、東京混声合唱団の求めに応じて書かれた合唱曲。混声合唱だが、最大8部以上に分かれている。混声合唱のための「うた」はアンコールピースとして書かれたので、当初はピース譜で出版されていた。「小さな空」「島へ」「さようなら」がお気に入り。独唱用の楽譜も発売されて、多くの人に愛されている。

👉 <https://youtu.be/1IjTiVHE0lg>

武満 徹：夢窓 Dream/Window

また現代の曲でスママセン。指揮者の岩城宏之さんのファンだったボクは、彼の影響もあって、いわゆる「現代音楽」も好んで聴いていた。「これはわけが分からないな」という曲の中で、やはり日本の作曲家（武満徹、三善晃、石井真木、湯浅譲二、一柳 慧、林 光など）の作品は受け容れやすかったのだ

そんな中で、武満徹の音楽はある意味異彩を放っていた。調性音楽という範疇で考えるとわけが分からないのだが、自然の中にある音を楽譜に書き記したと思えば、なんと美しいのだろうといつも感動していた

この「夢窓」は、苔寺を建てた夢窓国師からヒントを得た書かれた曲。コンチェルトグロッソ（合奏協奏曲）のような編成で書かれていて、ソリスト群をオーケストラを取り囲むように演奏される。コンチェルトグロッソといえば、ヴィヴァルディ「四季」が有名である

「夢」と「窓」。この2つは夢という閉じたものと、窓という開いたものともいえるし、夢へと導く窓とも考えられる。おそらく、武満は前者の対比としてこの曲を書いている。また、20歳代だったが、この曲に出会って、夢窓国師の苔寺がみたくなくて、近くにある祇王寺とともに訪れて長時間ねばった記憶がある

👉 https://youtu.be/3XLf95H_iWA

三善 晃：波のアラベスク

武満徹の曲ばかり紹介しているが、実は武満にも夢中だったが、それ以上に三善晃に夢中だった。でも、武満以上に特に女声合唱でガンガン合唱曲を書いていた。三善の作品は若干の憧れはあっても、理解にはほど遠かった。「ウミニイルノハアレハニンギョデハナイノダンス」??? そんなときに、テレビのアニメ「赤毛のアン」の主題歌に出会う。「え〜！あれが三善晃の曲？」三善晃の合唱曲のピアノパートにうっとりしているボクは、もちろんこの曲にもキューンとしていたのでした。

👉 <https://youtu.be/Dp02FrCwVVI>



Victoria : O magnum misterium

モーツァルトにしても、ハイドンにしても、宗教曲って何聴いても同じにきこえ

ておもしろくないよなと思っていた。バロック音楽もいうまでもなく、ルネサンス音楽や中世音楽はすぐに眠れます！状態。そんなときラジオで耳にしてプチ電気が走ったのがこの曲。最後の三位一体を表す三拍子がなんとも新鮮。スペインを代表し、ルネサンス音楽祭後の巨匠ともいえるヴィクトリアの音楽は、ルネサンス音楽の熟した姿の1つなのだろう。この曲をきっかけにルネサンス音楽にものめり込んでいくこととなった。

👉 <https://youtu.be/eDAQtZz1yf4>

~~~~~  
武満徹：波の盆 NAMI NO BON (1983)

3回続けて武満徹の作品。大学一回生の時に出会った武満の音楽を片っ端から聴きまくった。LPレコードも買い、正座して聴いていた。いわゆる調性音楽の枠におさまらない作品もあれば、邦楽器を使ったもの、そして、合唱曲もあった。大学4回生の関西合唱コンクールには武満の合唱における大作「風の馬」の第3ヴォカリーズをひっさげて殴り込みをかけた。その時の審査員であった田中信昭さんから高い評価をいただいて、ちょっと勘違いをして音楽にのめり込んでいったのかもしれない。

この「波の盆」は1983年に日本テレビで放送されたテレビドラマ。倉本聰脚本、監督が実相寺昭雄で、その主題曲として武満徹が作曲した。

2、3年前か尾高忠明さんが指揮するN響定期でもこの曲が取り上げられるなどその価値が再認識されている。れっきとした調性音楽で、映画好きで映画音楽も数多く作曲した武満徹の、もしかすると最高傑作かとも思う。なんというか、人生というか、人間というか、慈しみというか、愛というか…。この音楽を言葉で表現できようか。

録音の時に指揮者の岩城宏之があまりの音楽の美しさに涙が流れてしまい、コンマスを見たら、そのコンマスも涙を流していたというエピソードが残っている。

👉 <https://youtu.be/0lM0edlchMc>

~~~~~  
武満徹：MI・YO・TA

武満徹が続く。おまえ！合唱に一生懸命になってるのに、いつになったら合唱曲が出てくるねん！ときこえてきそうです。この曲は武満徹が黛敏郎のアシスタントをしていたときに、武満が書きためていたスケッチの一つ。世に出ないままだったこのメロディを武満のお別れの会での弔辞で黛敏郎が披露をした。あまりにも美しいメロディと黛が紹介した。武満の親友だった谷川俊太郎がのちに詩をつけ、指揮者の沼尻竜典が混声4部合唱にした。御代田とは軽井沢にある町の名前で、武満が一年の大半をこの御代田の邸宅で過ごし、大半の曲をここで書いた。

👉 <https://youtu.be/wF1YU2poLAo>

~~~~~  
武満徹：弦楽のためのレクイエム Requiem for Strings Orchestra (1957)

クラシック音楽後発組のボクは大学でクラシック音楽に目覚め、とにかくいろいろな音楽を片っ端から聴きまくっていた。指揮者の岩城宏之さんが大好きで、たくさん出されている著者も手当たり次第に読んだ。大きな影響を受けた。「初演魔」の異名をもつほどの現代の音楽のスペシャリストでもあり、武満徹音楽の1番の理解者であった岩城さんの指揮する現代の音楽も早くから聴いていたのだ。

武満の音は深い海のような音とする。彼の夢の中はそんな音がしているのだろう。体が強いというわけではなく、若い時から何度か死の床にあった時に書いた曲と言われていて、初来日したストラヴィンスキーが日本の作曲家の作品が聴きたいとNHKのライブラリーで聴きまくった時にこの作品に出会い「なんと厳しい作品だろう」と言ったエピソードが残っており、それまでは相手にもされなかった武満徹が一気に注目されるきっかけとなった。

👉 <https://youtu.be/8drQ4ekgLNY>

~~~~~  
シベリウス：アンダンテフェスティーヴォ Sibelius : Andante Festivo

1922年にある製作所の創立25周年の祝賀会のために書かれた曲。当初は弦楽四重奏のために書かれたが、のちに弦楽オーケストラとティンパニーのための曲に書き換えられた。作曲されてまだ100年経ってない。6、7年前だろうか尾高忠明指揮NHK交響楽団定期の放送で初めて知った。最初の音が出た瞬間にフィンランドの自然と柔らかく吹く風がわっとやってきた。教会旋法的なところもあるし、最後はアーメン終止で合唱愛好者にも親しみやすい。しかし、内面にたたえる気高さや深い愛は、シベリウスは歌謡性が高いのでそちらに気を取られてしまうけれど、実は、ブルックナーに並び立つほどの精神性なのではないかと考え始めるきっかけとなりました。

👉 <https://youtu.be/l2ombnrXrn8>

~~~~~  
矢代秋雄：夢の舟 Akio Yashiro:The Dream Boat

三善晃の少し前の世代のパリ音楽院で学んで藝大作曲科教授として多くの後進を育てた。40代後半に過労で風邪をこじらして夭折。完璧主義的な面を持ち、非常に作品数も少なかった。交響曲やピアノ協奏曲が有名。ピアノのための小品であるこの曲は、河村尚子のピアノの聴いた。まさに「夢の舟」である。

👉 <https://youtu.be/05003PG-sFI>